

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (東海)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・当地の観光客の動向は、コロナ禍での自粛慣れと自粛疲れからの脱却の繰り返りで増加したり減少したりである。学生は授業なし、サラリーマンはリモートワークという名の出勤なしの状況で、10～30代のマイカーで来て食べ歩きをする客が主流となり、本来の観光客のような土産物の売上には結び付かない。平均客単価は半分である。観光バスによる団体客はゼロに近い。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の影響もあり、2～3か月前と比較すると、平日を中心に夜間の来客数が増えており、売上はまたやや伸びてきている。
	○	コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が適用されたが、これまでの緊急事態宣言時と比較してそれほど落ち込みは感じられない。3月よりも若干回復傾向にある。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年は緊急事態宣言中だったため、前年比では全てのカテゴリーが改善傾向で、前月と比較して来客数はプラス8%、エンターテインメント・お買い得キャンペーンの対象商品群のファーストフードや飲料はプラス5～8%改善している。
	○	コンビニ（店員）	来客数の動き	・暖かくなり外出する人が増えた。新発売のビールが好評で即完売になったり、いろいろなセールがあり売上も好調である。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体の不足から車の納期に時間が掛かるようになり、消費者も早めに発注する動きがある。
	○	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・コロナ慣れで、緊急事態宣言が出ていようが余り変わらない状況になってきた。
	○	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・このところ入場者は順調に推移している。天候に恵まれていることもあるが、コロナ禍においても入場者数は好調である。1月が積雪等で不調だったため、今月は3か月前よりやや良くなったと判断する。
	○	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・これ以上は悪くならないという意味で、やや良くなる。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・大型ショッピングセンターや複合型商業施設等の店舗は多くの客でにぎわっているようだが、対照的に従来の商店街、小売店にはほとんど来客がない。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・やはり新型コロナウイルスの影響で、客足が全くない状態である。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・ほぼ集客に関しては変わらない。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染を心配して来店をためらっている高齢者が最近多いように感じている。しばらく顔を見ていない客も多く、回数を減らしているようにも見受けられる。
	□	一般小売店〔書店〕（営業担当）	販売量の動き	・コロナ禍でも新年度用の受注量には余り変化がなく確保できている。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・来客数が減っている。平日の昼間は高齢の客が散歩がてらに入ってきて少し話をして帰る。土日は駅には人がたくさんいるが売場は結構閑散としており、平日の昼間よりも少し来客数はあるが厳しい。売場を散歩のように通り抜けていく客、販売員と話をするだけの客、試着だけの客、インターネット購入のためか商品情報を入手するだけの客が多く、売上は厳しい。
	□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は、前年を上回ってきているが前々年比だと7割の水準である。
	□	百貨店（業績管理担当）	販売量の動き	・3月までは徐々に来客数、店頭売上が回復してきたが、4月に入って周辺都県でのまん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言の発出を受け、再度来客数・店頭売上の回復が鈍くなってきている。

<input type="checkbox"/>	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・徐々に戻りつつあった来客数も、まん延防止等重点措置が出てからは厳しい状況になってしまった。新作の投入により客の購入はあるが、目的買いがメインで回遊客は少ない。4都府県で緊急事態宣言が出てからは、東海地方でもまた発出されるかもしれないという不安もある。
<input type="checkbox"/>	スーパー（販売担当）	販売量の動き	・日配品の廃棄額が減っている。高額でも半額なら買う。収入減少でもおいしい物がお買い得なら買われているように感じる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（販売担当）	来客数の動き	・平日の来客数は少ないが、土日は家族連れで来店がある。平日分を土日でカバーしており、余り売上は変わらない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（営業企画）	お客様の様子	・コロナ禍での生活様式が安定してきており、感染状況による購買状況の上がり下がりの幅が小さくなってきている。ただし、全体的な消費は、客単価を中心に徐々に低下しているように感じる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年比では回復傾向にみえるが、前々年比でみると余り変わっていない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年の数値はちょうど緊急事態宣言が発出されていた時期と重なるため良くなっているが、前々年と比べると5割減であり、まだまだ良くない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・既存店は前年比110%であった。前年のコロナ禍の状況に鑑みれば当然の結果である。前月比と比較した場合は横ばいであった。結果的に身の回りの景気に大きな変化は感じない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・4月中旬からなじみ客の来店が意外と多く、いつもは単品買いの客も複数買ってくれた。新型コロナウイルスで都心への外出がはばかれるため、個店の専門店であれば大丈夫だという理由で来店してくれた。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（売場担当）	お客様の様子	・客の買い控え等もなく、売上高に大きな影響を及ぼしていない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（販売企画担当）	来客数の動き	・客の来店がほとんどないままである。売上も上がらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・例年4月は、決算セール後の反動で販売台数は少ないが、特に今年は販売台数も来客数自体も少ない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの脅威はあるが、生活していくなかでの慣れもあり、来客数はやや少ないながらも必要な作業のためには訪れてくれる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年は消費税増税の影響と新型コロナウイルス対策の自粛開始の影響もあったが、今年は前年を上回り、正常とはいえないまでもコロナ禍前に戻りつつあるのではと思う。ただし、半導体不足で今までに聞いたことがないような減産になっているので、需要に供給が追いついていない状況が心配である。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車効果もあり販売台数は前年並みで維持しているが、同系列ディーラー同士の販売競争も激しくなっている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染対策を考え、客との積極的な面談対応ができず、直接会う機会が極端に減っている状態が続いている。懇意にしている客であっても直接面談し会話する時間は限られ、客に不快感を与えないよう気を遣う。今の状況では新規客との商談機会がなかなか生まれず、苦勞している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・問合せのアクセス数が多いが、だからといってよく売れるかというところでもなく、悪くはなく少し良いという状況である。この3か月をみても余り目立った動きはなく、まあまあ売れており悪くはない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・年明けから3か月以上経過し年度も替わったが、一向に盛り上がる気配はない。しかし、大きく下がる気配もない。緊急事態宣言が出て解除されても、大きな変化がない。

<input type="checkbox"/>	住関連専門店 (営業担当)	販売量の動き	・住宅、その他建築物に関しては、新築物件は様子見で、リフォーム事業では細かい物件は出始めた。ただし、商業施設・店舗などの改装・新築などは延期や一部中止の物件もある。新型コロナウイルスの影響が大きい。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 〔書籍〕(店員)	来客数の動き	・例年忙しい時期ではあるが、巣籠り需要もあり売上は全体的に伸びている。ただ前年が新型コロナウイルスの影響もあり今年よりもより巣籠り需要が大きかったため、前年よりは5%ほど売上は落ちている。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・コロナ禍により全く来店しなくなった客も多く、来店するのは、ほぼ近所の客のみとなった。
<input type="checkbox"/>	その他飲食〔ワイン輸入〕(経営企画担当)	販売量の動き	・個人消費は、予想していたよりは落ち込みが少ない。コロナ禍であっても消費意欲はある。一方で業務用の落ち込みは著しい。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル (支配人)	来客数の動き	・宿泊者数は前年の100%超えであっても、予算・前々年比では40%といった具合で悪化状態に変わりはない。一般宴会は前年の400%ではあるが前々年の20%と一向に回復の兆しはない。食堂は新たに出示された県独自の非常事態宣言により時短営業が課され、これもまた悪化したままである。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・連休直前の一部都府県の緊急事態宣言、当地のまん延防止等重点措置などで前年同様の外出自粛が続くので、2か月前まではあった予約も全てキャンセルになり、絶望的な状況である。新型コロナウイルスのワクチン接種に望みをつないでいるが、一旦この感染拡大を食い止めて減らさないと、どうにも旅行どころではない雰囲気になっていて、6月のGo To Travelキャンペーン再開は難しくそうである。これが夏休みまで食い込めば更に厳しいので、旅行業も中小を問わず何とか助けてほしい。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・3回目の緊急事態宣言が4都府県に発出され、また県独自の非常事態宣言やまん延防止等重点措置が出て旅行申込みは依然少ないため、底辺をさまよっている状態に変わりはない。僅かに申込みのある旅行が取消しになったり人数が減少したり、ここ数か月前と変わらず悪い。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・団体旅行は依然皆無であり、キャンセルされる案件すらない状態である。会話のなかでも、旅行と付く言葉が全て悪のキーワードになりつつある印象を受けている。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスのせいだけではなく、夜の繁華街の飲食店は非常に人が少ない。なかなか上を向いて歩けない。いつ元に戻るのか不安である。来客数や街の人数が少ないことが一番大きな原因だと考える。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	お客様の様子	・当地でもまん延防止等重点措置が適用され、また緊急事態宣言時と同じ状態になった。非常に客の行動も敏感で、今回は行政を始め見回り隊などが夜の繁華街を回っており、今まで以上に夜8時にぴたっと営業を終えてしっかりと対策を行っている様子である。
<input type="checkbox"/>	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・例年と比べて、新規契約者数は減少、解約件数は増加となっているが、景気が悪くなっているというほど顕著な変化でもない。
<input type="checkbox"/>	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・今と同じ状態がずっと続いている。
<input type="checkbox"/>	通信会社(サービス担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で在宅勤務が増えたのか、企業からの光回線の注文が増加している。
<input type="checkbox"/>	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・コロナ禍でも変わらず訪問営業をしている。Web会議用の有線インターネットの需要が以前より増えている。

□	レジャーランド (職員)	来客数の動き	・3か月前は新型コロナウイルス第3波の緊急事態宣言中で、4月も感染再拡大で同様の状況になっており、悪い状況に変わりがない。4月としては、新型コロナウイルス発生以前の前々年と比較して来場者は6割程度にとどまる。まん延防止等重点措置の適用、緊急事態宣言の発出により、利用者の外出自粛ムードがみられる。関西圏からの来場割合が高いため、関西での感染再拡大の影響は大きい。
□	観光名所(案内係)	お客様の様子	・当地の繁華街も人通りは少なく、居酒屋等の店でも客が少ない状態が続いている。
□	美顔美容室(経営者)	来客数の動き	・当地でも新型コロナウイルスの感染者数が増えてきたため、来店をしばらく見合わせるという客がいる。
□	美容室(経営者)	来客数の動き	・イベントや行事がないため髪を整える必要もなく、ぎりぎりまで我慢して来店する客が多い。
□	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・3月は1年を通して販売量は一番良かった。4月は例年どおり落ち込む。予想の範囲内の動きだった。
□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・横ばい状態が続いている。長いスパンで見ると下降傾向である。
▲	一般小売店〔土産〕 (経営者)	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響で売上は激減している。
▲	一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	お客様の様子	・4月は年度初めで多少の売上を期待していたが、客の様子は、新型コロナウイルスの感染状況が一段と厳しくなる方向にあるため付き合いの幅を狭めており、そのような状況下では贈答品店での売上は伸びず個数も減る。葬式、結婚式、入学、進学の内祝い・プレゼントも本当に少なくなってきた。したがって、4月は前年と比べて少し悪い状況であった。
▲	一般小売店〔酒類〕 (経営者)	販売量の動き	・例年は正月明けから春先まで販売量が減り、3～4月と回復してくるのが、今年も新型コロナウイルスの影響で、飲食店でのアルコールなど飲料の販売が増えていない。前年よりも休業する店も多い。
▲	百貨店(総務担当)	お客様の様子	・4月上旬までは新型コロナウイルス感染者数も落ち着いた状況であったため、来客数や売上も好調であったが、4都府県への緊急事態宣言発出と感染者数増加により、来客数が大きく減少した。大雨のような天候もあり、来客数、売上共に大きく減少した。唯一の好材料は、海外ブランドや時計宝飾などの高額品需要が非常に高いことのみである。
▲	百貨店(営業担当)	来客数の動き	・一度増えたように見えた来客数がまた減少し、4都府県の緊急事態宣言の影響が当地の人たちにもあるように思う。
▲	百貨店(計画担当)	お客様の様子	・富裕層の買上動向は横ばいであるが、コロナ禍の状況が悪化してきており、一般来店客の動きが厳しくなってきた。
▲	スーパー(店長)	来客数の動き	・コロナ禍において来店頻度は変わらず減少傾向である。商品も棚にそろっている状態で、売上が伸びない。
▲	スーパー(店員)	販売量の動き	・4月は外出制限や時短の要請がなく、飲食店の買い出しもあり、売上は横ばいであった。ただ、花見関連の飲食はほぼゼロであった。夕方以降、客足がガクッと落ちている。
▲	スーパー(ブロック長)	お客様の様子	・前年の新型コロナウイルスによる売上高の追い風の裏年となり、客は冷静な買物行動をしており、前年を上回らない状況が続いている。また、新型コロナウイルスの感染状況の悪化により、一段と夕方から夜間の来客数が減少している。
▲	スーパー(販売担当)	販売量の動き	・必需品の動きに変化はないようだが、前年のいわゆる巣籠り需要の商品は明らかに販売数量が落ちている。化粧品等の落ち込みは変わっていない。
▲	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による年明けの緊急事態宣言発出で、人の動きが鈍化したことから来客数が下落したが、4月も新型コロナウイルスの感染が再拡大し、まん延防止等重点措置が出たことにより、大幅に来客数が減っている。

▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・4月は例年より若干気温が低いようで、飲料水などの売上が減少している。また、家飲みといわれていてもアルコール類の売上も悪かった。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年はテレワークやオンライン授業の影響でPC関連の売上が伸びたが、一巡したため販売台数が落ちた。
▲	家電量販店（フランチャイズ経営者）	来客数の動き	・例年4月は、売上は多くないが人が動く月なので来客数はある程度ある。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で来客数が少ない。引越しや1人暮らし等のシングル需要も余りみられない。学生はリモートで動かず、高齢者は引き籠もっている。今まで新型コロナウイルスの影響が少なかった地方にも、いよいよ影響が出始めている。
▲	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・業種によって景気の良い悪いが極端に分かれる。総合的には、少し新型コロナウイルスの影響がまた強くなってきたため、景気は悪くなっている。
▲	その他専門店【貴金属】（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後、著しく店前通行者数が減少すると同時に来客数も減少した。休業及び閉店する店も出現し、本格的にゴールデンウィークに突入すると、更に寂しい状況になりそうな気配である。
▲	高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加、営業時間の短縮により来客数が減少している。そのなかでもランチタイムは増加、ディナータイムは大きく減少している。テイクアウトが以前よりは若干減少傾向であったが、月後半より再度、増加に転じている。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数が例年より少ない。
▲	一般レストラン（従業員）	来客数の動き	・近隣府県で緊急警戒宣言の発出やまん延防止等重点措置が適用されて、当地でも状況は悪くなる一方である。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置などがあり、当地は対象地域ではないが、テレビやマスコミ等を通じて感染予防や感染症の恐ろしさを連日流されると、やはり外出が自粛されて、飲食や宿泊に対しての自制も行われているため、週末以外は客が余りいない状態が続いており、1月もそうであったが4月に入ってから更にそれが顕著な状況がみられる。
▲	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・当地でのまん延防止等重点措置の適用、4都府県の緊急事態宣言の発出で、宿泊は減少した。レストランは、夕食はほぼ客がない。宴会も少人数の会議が週1件程度あるのみである。
▲	旅行代理店（経営者）	それ以外	・3回目の緊急事態宣言によって人流の抑制が始まり、飲食店街も駅ナカの店も閉店時間が早まることで売上が落ちるだけでなく、閉店や縮小する店が増えている。コインパーキングでも利用者が減っており、運営会社は逆ザヤになっているので地主との賃貸契約の見直しを行っても、テレワークの普及によって回復の見通しが立たない状況である。
▲	テーマパーク職員（総務担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用されたこともあり、若干入園者が減少している。
▲	理美容室（経営者）	来客数の動き	・客の話では、余り景気が良くないため出歩かないということであった。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響である。
▲	その他サービス【介護サービス】（職員）	単価の動き	・介護保険サービスの福祉用具貸与は、貸与価格の上限価格が改めて提示されたため価格改定を実施した。当然売上は下がるし、サービス料金が記載されているカタログ類の更新作業に数か月前から取り組み、大きな費用負担がのしかかった。
▲	設計事務所（職員）	お客様の様子	・客の話に景気の良くなる話は全くない。
▲	その他住宅【住宅管理】（経営者）	お客様の様子	・せん定仕事だけが増え、定期メンテナンスのみでビル内や住居内での作業は減っている。業者をできるだけ中に入れてくれないのだろう。このままでは先行きが見通せない状況である。

	▲	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	単価の動き	・県独自の非常事態宣言が出ていて、4月中旬から問合せがかなり減り、目標数値から大幅に減少してしまった。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月に入り商店街の人通りも減ってきて同時に来客数も落ち込んできた。
	×	一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	販売量の動き	・緊急事態宣言により景気は悪化する。
	×	一般小売店〔惣菜〕（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大のためである。
	×	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置に伴う移動制限や出控えによって、個人消費が急激に減退している。
	×	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第4波に伴うまん延防止等重点措置により、来客数が激減している。
	×	スーパー（経営者）	来客数の動き	・春分の日の頃から回復しつつあったが、4月に入り新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い、来客数は減少している。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・4月に入り中小小売店や飲食店で急に来客数の減少が発生しているため、売上も悪くなっている。
	×	スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・3か月前の売上は前年比100%以上で推移していたが、4月の売上は前年に対して98%と苦戦した。前月に引き続き前年の新型コロナウイルス需要の裏返しで、売上の苦戦が続いている。
	×	コンビニ（商品企画担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大、特に変異株による感染者数増加により、都市部の店舗を中心に客足が鈍い。全体のなかでも好調であった米飯や調理パンなどの日配品でも、来客数の減少に歯止めが掛からないことから売上が低迷している。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・4月に入って完全に動きが止まってしまった。新規客の来店もほとんどない。
	×	その他専門店〔雑貨〕（店長）	来客数の動き	・当地でのまん延防止等重点措置の適用、関東関西の緊急事態宣言発出の影響を受け、再び閑散とした母の日商戦となる。
	×	一般レストラン（従業員）	来客数の動き	・現在来店してくれる客は、一部の常連客のみである。
	×	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・予約が入ってもすぐにキャンセルが続いている。
	×	旅行代理店（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い旅行の需要が全くない。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスのためである。
	×	テーマパーク（職員）	お客様の様子	・3度目の緊急事態宣言が発出されたためである。
	×	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きから景気は悪くなっている。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・この1年間新型コロナウイルスのため、客も外出を怖がってパーマを掛けることもセーブしているため、やはり暇である。
	×	理容室（経営者）	お客様の様子	・相変わらず客足は安い店に流れている。
	×	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・販売量が毎月下がっているのが不安であり、今後が心配である。
	×	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・以前からではあるが、住宅を新築したいというニーズが更に減っていると感じる。
企業動向関連	◎	—	—	—
(東海)	○	化学工業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体向け需要が引き続き好調である。
	○	一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・価格競争は非常に厳しいが、北米、アジアでの自動車向け設備で受注につながる引き合いが増えてきた。

○	輸送業（エリア担当）	それ以外	・当社が全国に保有する土地や建物に対して、3月頃から不動産会社から遊休地を売ってほしいという問合せが3～4件あった。当社はそのような物件は保有していないが、不動産業界ではない運送会社である当社にそのような問合せがあるということは、土地の動きで先行きが検討されるような社会の動きが何かあるのかもしれない。
○	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・積極的な買い注文、買換え、借換えが多くなっている。
○	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込広告の受注は安定的に入ってきている。
○	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍でイベントが開催されない状況が続いているものの、このタイミングでメンテナンスの受注が増えている。
□	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注数は前年以下で、3か月も同様であった。
□	化学工業（総務秘書）	それ以外	・3回目の緊急事態宣言が出され景気は低調なままで推移している印象を受ける。3月期決算は意外に上方修正の報道が散見されるが、業種により明暗が分かれ全体として景気は変わらず低調である。新卒の採用が抑えられているという結果もしかりである。
□	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大手企業のライン生産だけは復活しつつあるが、モノづくりの中小案件では、いまだ厳しい状況が続いている。コロナ禍での先送りやキャンセルが続いている。
□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響は少ないが、良いこともない。
□	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・相変わらず当地の航空機業界はずっと底のままで、良くなる材料も全くない。
□	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・中国向けが堅調であると聞いている。半導体不足のために生産予定台数を減らしたが、減らしても景気はますます堅調に推移している。
□	輸送用機械器具製造業（管理担当）	それ以外	・コロナ禍での外出控えで購買意欲が落ちている。
□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・年度初めの4月は毎年契約者数が年度末の反動で激減するが、今年は減少せず通常の契約者数が確保できた。
□	建設業（営業担当）	取引先の様子	・業種によって、巣籠り需要という形で家庭やメンテナンスに携わる仕事は多いが、公共の仕事は、受注からの実行に移っている仕事の規模がまだ小さい。
□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・輸出入貨物はコンテナ船の混乱もあり不安定で対応コストが増えているが、国内の荷量は安定しているため、輸送能力を調整しやすく利益が出しやすい状態が続いている。
□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の客のうち、機械及び設備投資関係からの受注は減っている。反面、自動車関係や鉄関係は、新型コロナウイルス発生以前と比べてもそれほど変わっておらず、今後の予定にも大きな変化はなさそうである。
□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・個人消費で宅配は伸びるものの、企業間の物流が低調である。全体の底上げにはつなげない。
□	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍の影響がしばらく継続するため、航空貨物はしばらく好景気と見込む。
□	金融業（従業員）	取引先の様子	・飲食店などはやはり新型コロナウイルスの影響のため、営業自体が時間短縮等もあり景気としては最悪の状況が続いている。反面、自動車産業などでは巻き返しが発生しており、業種によって大きな差が出ている。
□	金融業（企画担当）	取引先の様子	・コロナ禍における3度目の緊急事態宣言もあり、飲食関連や観光関連業界は非常に厳しい状況が続いている。特に体力のない企業や個人事業主は、壊滅的な状況にある。

	□	不動産業（経営者）	それ以外	・例年同様に晴れの日が多いが、新型コロナウイルスの影響により出費を控える傾向は継続しており、売上は前年同期を下回っている。
	□	不動産業（開発担当）	受注価格や販売価格の動き	・住宅不動産価格の上昇はみられない。不動産売買も積極的に取引されているとは感じない。
	□	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・当地でも再び新型コロナウイルスの感染者数が増えてきたため、取引先としても広告に対しての足踏み状態が続いている。
	□	会計事務所（職員）	それ以外	・利用しているスポーツジムの会費が6月分から値上げされる。新しい飲食店やドラッグストアも近くにできた。しかし、新型コロナウイルスの感染防止のため自粛を求められていることから、活発に消費行動を起こす気にはなれない。
	□	その他非製造業 〔ソフト開発〕 （経営者）	受注量や販売量の動き	・4月は、好調とはいえないがまずまずの状態を終えることができた。ただ世の中は不況で、好調といえるところの話を聞かない。身を縮めて前向きにするしか方法はない。
	▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症についてはまん延防止等重点措置が適用され、また、第4波の影響もあり受注量・販売量が減少して景気はやや悪くなっている。
	▲	窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・年度が替わった頃から受注量が若干減ってきた。半導体の供給不足による車の減産が影響して、車に関連する工場の稼働率が下がっている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	それ以外	・鉄やステンレスといった主材料の価格高騰が収益の圧迫要因になっている。物件の動きも足元は活発ではない。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	それ以外	・通信インフラ設備への投資状況は悪くないが、半導体部品の需給問題が少しずつ始めている。特に通信機器の部品、製品の供給が遅れ、納品先からも懸念の声が上がっている。この先の売上、利益の確保が心配である。
	▲	通信業（法人営業担当）	それ以外	・コロナ禍での光回線に伴う開通準備業務の減少が大きい。過去これほど業務量が減ることはなかった。特に3～4月は30%以上の大きな減少だった。街中では、パート従業員、特に女性の解雇や飲食店閉店による雇止め話題をよく聞く。スーパーの半額セールタイムに客が多く集まっている。一番下層の人にしわ寄せがきているようだ。
	▲	通信業（法人営業担当）	競争相手の様子	・民間企業のIT投資が抑えられている影響か、行政入札で競合する企業が増えている。これまでこのエリアで見掛けることがなかった他社の参入により、当地方のシステムベンダー勢力図にも変化の兆しがある。
	▲	通信業（総務担当）	それ以外	・新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置や緊急事態宣言により主要都市の経済活動が制限されているため、景気が良くなる要因がなくなってしまった。人の動きを制限されている。
	×	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。
	×	公認会計士	それ以外	・新型コロナウイルス感染症による経済活動の低下が中堅・中小企業の操業にマイナスの影響を与えている。中堅・中小企業のテレワーク等により、従業員の残業代が減少している。
雇用 関連 (東海)	◎	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・コロナ慣れもあつてか、全て一律に自粛ということではなくなり、提供できるものについては稼働してくるようになってきた。
	○	アウトソーシング企業（エリア担当）	採用者数の動き	・自動車メーカー関連の受注は引き続き増加傾向で前年を上回る勢いのため、雇用者数増加の動きがあるが、大手半導体メーカーの火災の影響が、今後懸念される。
	○	職業安定所（次長）	求人数の動き	・有効求人数の前年同月比を3か月前と比較すると、全体として依然減少傾向が続いているものの、一部で増加に転じる業種が見え始める等、徐々に求人数が改善し始めている。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・今の環境下でも採用をする仕組み・フローを確立できている企業は、採用決定数の上昇につながっている。

□	人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・引き続きコロナ禍による自粛が影響しており、どの業種も先行きが不安ななかで日々耐えている。
□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響でホテル業界の求人は全くない。
□	人材派遣会社（企画統括）	求職者数の動き	・新年度に入っても求人数が低調である。
□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣求人数は前年比でほぼ同水準となり回復傾向にあるが、前々年比では60%と厳しい状況である。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・景気に直結するかどうかは定かではないが、緊急事態宣言が解除されて以降、駅にはキャリーバッグを持った人が多くみられるようになってきた。また、街中の人出も多くなっている。
□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・特に求人、求職とも動きが変わっていない。
▲	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・主要客である自動車メーカーの請負取引は、3月末での取引終了や4月からの予算減少の影響で拠点エンジニアの稼働率がここ数か月では最も低下している。ただし、一部の部署からは派遣の引き合いが増えている傾向もあり、景気が悪いとも言え切れない状況なので、やや悪くなっていると考えられる。
▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・4月に入り関西、関東の新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、緊急事態宣言が発出されるに至り、3か月前より悪くなっていると感じる。特に、ゴールデンウィークに期待していた観光関連には大打撃である。
▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響により、求人数の減少、求職者数の増加が前年同月比で2年以上連続しており、新規求人倍率、有効求人倍率も前年同月比では2年連続で下回っている。業種によってばらつきはあるものの大変厳しい状態が続いており、新型コロナウイルスのワクチン接種の進捗にもよるが、今より更に景気は悪くなっていく。
▲	職業安定所（次長）	求職者数の動き	・求職者の動向で、1～2月はまだ新型コロナウイルスの影響の少なかった前年を下回っていたが、3月は、前年比15%増加となった。
×	*	*	*